

日本の教育制度と心理的抑圧との関係

1170410 恩田 千愛

高知工科大学 マネジメント学部

第1章 はじめに

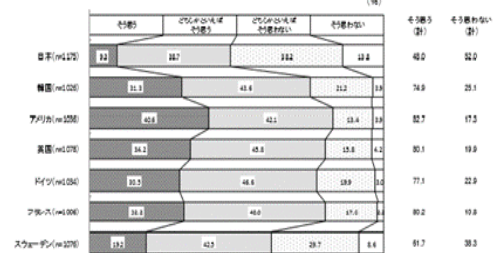
概要

現在、日本の教育制度はかつての「詰め込み型教育」から生徒の個性や自主性、自立を重視する教育へと転換されつつある(文部科学省, 2013)。これに沿って教育制度は急速かつ激しく変化しているが、このような変化は多くの問題も内包している。例えば、「自ら学び考える力」や「問題解決能力」の育成を目指した「総合的な学習」を導入するために、基礎科目の学習時間を削減せざるを得ないといった状況が生まれている。また、「ゆとり教育」と「学力重視」といった二律背反の命題を掲げるといった矛盾、全国学力調査あるいは共通学力テストによる画一的評価への批判などもこれにあたる。学校現場はこれらの対応に追われるとともに、その矛盾ゆえに混乱しているとの指摘もある(ベネッセ教育総合研究所, 2005)。1987年から実施されたいわゆる「ゆとり教育」という制度は、教育の画一化や詰め込み教育の弊害に対する反省から制定されたものであるが、その後、著しい学力低下を招いたという理由から2011年に廃止された。このようにわが国は、教育制度改革の名のもとに様々な取り組みを行ってきたが、結果ばかりを求めすぎるあまり教育現場の実情が置き去りにされているといった現状も見られる。新たな制度を導入する際には、現場との連携を確保し、理解を深めた上で実施することが重要なのではないだろうか。また、日本では元来、画一化された詰め込み型の教育が根付いているため、個性尊重や自主性の促進といった理念が十分に教育に浸透していない。さらに、ゆとり教育制度が廃止された後、「学力向上」への回帰が見られ、個性や自主性、自立を目指す教育を育むことはますます困難なものになっている。いずれにせ

よ、わが国の教育制度の方向性は、学力向上と個性重視との間で揺れ動いている。

図1は、平成25年に内閣府が行ったアンケート調査の結果である。これを見ると、日本人が他国の人々より自己を主張することについて、苦手意識があることが理解できる(内閣府, 2014)。

(d) 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる (％)



(図1) ※出典：内閣府 平成25年度我が国と諸外国の若者の意識に関する調査

日本では教育制度上、週5日間、1日の大半を学校で過ごす。また、アメリカ・イギリスでは、部活動は学校教育と別に行われるのが一般的であるのに対し、日本では部活動が学校教育に密接に結び付けられており(中澤, 2015)、授業だけでなく、部活動も学校教育の一環として扱われている。このため他者との意識的な関係性の形成は、その多くが学校という教育の現場で構築されると考えられる。すなわち、日本人の人格形成は教育制度が大きく影響すると考えることができる。また、日本の授業形態の特徴の1つとして、学年が上がるにつれ、教師主導の講義形式となることが挙げられる(久保島, 2013)。このような教育制度の中で6・3・3と、少なくとも高校卒業までの12年間、自分の考えを主張する

機会が十分に確保されないままに、授業は黙々と進んでいくのである。自らの考えを主張しなくても授業に参加できるという日本の教育環境は文部科学省が目指しているものとは大きく異なるものである。

そもそも、「自己主張」とは、「自分の意思や欲求を明確に持ち、これを他人や集団の前で表現し主張する」とことと定義される(柏木, 1988)。現在、自己主張に関連する研究は、「自己主張」と「自己抑制」の両側面を統合した機能として「自己制御機能」を定義している(大内・長尾・桜井, 2008)。これらの研究において、発達の側面や文化的側面からのアプローチが大半を占めており、教育制度の側面からの検討は多くは見られない。しかし、多くの日本人が12年間日本の教育制度の中に埋め込まれていることを考えれば、教育環境が自己主張の強弱に与える影響は無視できない。

以上を踏まえ、本研究では、日本の教育制度が生徒の自己主張性にどのような影響を与えているのかを明らかにすることを第1の目的としている。

本研究における実証の結果は、「日本の教育制度が、生徒の自己主張性の強さに影響(ネガティブな影響)を与える」ことを示している。

目的

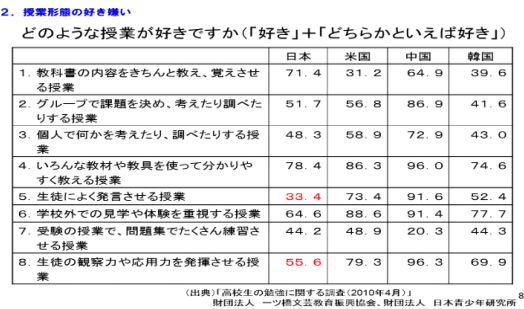
本研究では、日本の教育制度と自己主張性の強さとの関係を明らかにすることを目的とする。

人々の人格形成に影響する要因は大きく分けて家庭環境と教育現場の二つに分けられる(久米・花岡・水谷・大竹・奥山, 2014)。しかし、家庭教育の中心である両親も多くの場合、日本の教育制度の中で育ったことを考えれば教育環境が自己主張の強さに与える影響は小さくないと考えられる。これらの関係が明らかになることにより、日本の教育制度が少なくとも自己主張性という観点から日本人の人格形成にどのような影響を与えているのかを明らかにすることができる。また、本研究の検証の結果は、現在のわが国の教育制度に内包される課題を提示するという意味において、今後の制度改革の一助になると考えられる。

第2章 背景

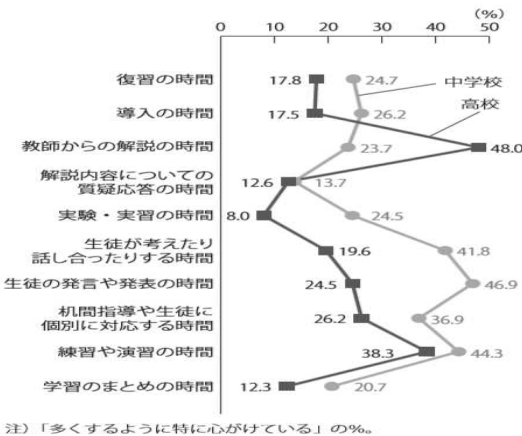
2-1 日本型教育制度の特徴

日本型教育制度の特徴として、第1に「画一化」があげられる(図2参照)。図2に示されているように、わが国と他3カ国の授業形態に対する嗜好について、日本人は「教科書の内容をきちんと教え、覚えさせる授業」を好むが、「生徒によく発言させる授業」はそうではないことが理解できる。



(図2)※出典 高校生を取り巻く状況について 財団法人一ツ橋文芸教育振興協会、財団法人日本青少年研究所(2010)

また、教員に調査した授業時間の使い方や進め方に関する調査結果を見ると、学年が上がるにつれ教師主導の授業になり、高校では全授業時間の約9割近くが「教師からの説明の時間」を中心とした授業になっている(図3：久保島, 2013)。つまり、日本型の教育制度は教師が一方的に授業を行うため、生徒は受け身となり生徒が自ら考えることや自らの意見を主張する場が少ないと考えられる。



(図3)※出典 調査結果にみる高校教育の現状と課題—学校現場の視点から解説② 授業時間の使い方や進め方【教員調査】(中学校・高校別) 埼玉県立不動岡高等学校教頭 久保島 昌一(2013)

2-2 自己主張性の弱さ(自己抑制)が引き起こす問題

日本は米国と比較すると、協調性を重んじるといった自己抑制を重視する教育となっている。一方、米国では「自発性」や「能動性」といった自己主張を重視する教育となっており、日本とは異なる(佐藤, 2001)。しかし、現在の日本は、いじめ、自殺、犯罪、責任の拡散といった突発的なストレスに起因する問題が増加傾向にあることが指摘されており、これらは自己抑制と関連があることが示されている(原田・坂井, 2006)。すなわち、自己の欲望を抑えて生きることと現代人のライフスタイルの間に大きなギャップが存在しており、それゆえ日々の生活で多くのストレスを抱える。そして我慢の限界に到達した結果、上記のような問題が生じるのである。このように「自分に素直になれない」「ありのままで生きていない」「自分が分からない」といった現代人の特徴について、和田(2001)は以下のように整理している。

- ① アイデンティティ意識のなさから、自分に自信がなく周囲に合わせてしまう。
- ② 人との深いかわり合いは避けるが他人との同調は上手い。
- ③ 自分がなく「みんなと同じ」でなければ不安になる。

このような特徴は、将来や、自分の人生に対する不安を生じさせる、あるいは生きる意味を見出せないといった問題を引き起こすと考えられる。

第3章 問題意識と仮説の生成

3-1 問題意識

文部科学省は教育現場に対して「生徒の個性を尊重すること」を求めているが、教育現場の実情としてはこれを十分に達成できていないという現実がある。自分自身について深く考え、それを表現することを強く求められない日本型教育の中で育った日本人が、自分の意思を求められることを好まなくなることは想像に難くない。教育現場において「自分」というものを確立する場面が少ないことを考えれば、多くの日本人が「自己主張」することを

苦手とするのは当然であるとも言える。

1980年に「個性重視の教育」を目的とした脱画一化により導入された「ゆとり教育」は、「学力低下」を招いたという従来の目的とは異なる理由で2010年代初期に廃止された。これにより、過去の課題が十分に検証されないままに、授業時間の増加といった学力向上への取り組みが行われることとなった。このような大きな方向転換のため、教育現場はこれに迅速に対応することができず不安定な状態に陥ったと考えられる。いずれにせよ、文部科学省の方針が従来の「画一的教育」に舵をきっており、したがって自己主張が尊重される教育現場の確立はますます困難なものになりつつある。これが本研究における問題意識である。

3-2 仮説

これまでの議論から以下の実証仮説を提示する。

実証仮説

「日本型教育制度は、自己主張性の強さに影響(ネガティブな影響)する。」

以下ではわが国の教育制度が自己主張性の強さに影響を及ぼしているのかについて、アンケートの結果を分析することにより当該仮説について実証的に検証する。

3-3 実証方法

本研究では、高知工科大学の83名の学生を対象に質問紙調査を実施した。自己主張性を測定するための質問項目については、伊藤・小玉(2005)、原田・吉沢・吉田(2008)、首藤(1995)を参考にした。また、画一的教育性を測定するための質問項目については授業形態の画一性に関する質問、学校の校則の厳格さに関する質問、部活動における統率の強さに関する質問、他人との比較における同調性に関する質問から構成される。なお、これらの質問項目は筆者自らの考えに基づくものである。さらに、その他の要因に関する質問項目については外山(2016)の楽観主義尺度、古市(1995)の権威者依存尺度、川崎(2008)の生きる力尺度、桜井(2000)の自尊感情尺度、高坂(2008)の劣等感尺度に加え、筆者独自の自己抑制尺度、協調性尺度、権威者主義尺度に基づいて作成した。質問項目は、自己主張性を測定するものが12問、画一的教育性を

測定するものが16問、その他の要因を測定するものが18問の合計46問である。回答方法は「思わない」(1点)―「思う」(5点)までの5段階評価を用いた。各尺度の得点は、それぞれの尺度を構成する質問項目の平均値により計算される。

この分析に用いるモデルは以下のとおりである。

$$AS=\alpha+\beta_1UE+\beta_2SI+\beta_3CO+\beta_4OP+\beta_5IA+\beta_6ZFL+\beta_7SE+\beta_8IC+\beta_9SA+\varepsilon.$$

AS=assertiveness(自己主張性), UE=uniform education(画一的教育), SE=self-inhibition(自己抑制), CO=cooperativeness(協調性), OP=optimism(楽観主義), IA=independent authorities(権威者依存), ZFL=zest for living(生きる力), SE=self-esteem(自尊感情), IC=inferiority complex(劣等感), SA=socialist authorities(権威者主義)

第4章 結果

表1は全ての変数に関連する質問項目に対する記述統計量である。自己主張性の平均値は3.097、標準偏差は0.501であり、中央値は3.083であった。また、画一的教育の平均値は2.912、標準偏差は0.386であり、中央値は2.875であった。

(表1) 記述統計			
	Ave.	SD	Medi
AS	3.097	0.501	3.083
UE	2.912	0.386	2.875
SI	3.097	0.501	3.083
CO	2.422	0.741	2.333
OP	3.127	0.956	3.000
IA	2.902	0.711	2.667
ZFL	3.235	1.034	3.500
SE	3.169	0.853	3.000
IC	2.470	0.976	2.500
FA	3.434	0.893	3.500

検証モデルに含まれるすべての変数間の相関マトリックスは付録に示している。なお、表2では独立変数である画一的教育とその他の変数との相関のみを示している。画一的教育とその他の変数との間には全てにおいて負の相関がみられた。その中でも、自己主張性、協調性、権威者依存、劣等感、権威者主義との間における相関は1%水準で有意であった。また、楽観主義との間における相関は5%水準で有意であり、自己抑制と生きる力との間における相関は10%水準で有意であった。

(表2) 相関係数		
	UE	
AS	-0.340	***
SI	-0.185	*
CO	-0.371	***
OP	-0.261	**
IA	-0.339	***
ZFL	-0.220	*
SE	-0.147	
IC	-0.310	***
SA	-0.513	***
p<0.01*** p<0.05** p<0.10*		

表3は画一的教育が自己主張性に影響を与えているかを検証するために、自己主張性を従属変数として重回帰分析を行った結果である。

この結果を見ると、第1に画一的教育は自己主張性と有意に負の相関を有する(β=-0.345, t=-2.080, p=0.042)。従って、画一性が高い教育を受けている者ほど自己主張性が弱いと考えることができる。この結果は本研究で提示した仮説を支持するものである。

その他の要因をみると自己抑制は自己主張性と有意に負の相関を有する(β=-0.133, t=-1.682, p=0.098)。一方で、自尊感情は自己主張性と有意に正の相関を有する(β=0.173, t=2.415, p=0.019)。

(表3) 重回帰分析				
	β	SE	t-value	
UE	-0.345	0.166	-2.081	**
SI	-0.133	0.079	-1.682	*
CO	0.049	0.062	0.788	
OP	0.042	0.075	0.558	
IA	-0.039	0.077	-0.511	
ZFL	0.044	0.074	0.596	
SE	0.173	0.072	2.415	**
IC	0.032	0.067	0.474	
SA	0.013	0.072	0.173	
定数項	3.496	0.868	4.025	***
F値=4.367<0.01 修正R2=0.299 VIFの最大値=2.167				
p<0.01*** p<0.05** p<0.10*				

第5章 まとめ

5-1 考察

本研究は画一的教育が自己主張性にどのような影響を与えているのかを明らかにすることを目的とした。

その結果、教育の画一性は自己主張性と有意に負の相関を有することが示された。この結果は、本研究の仮説を支持するものである。この結果に基づけば、文部科学省は学力向上とともに、個性や自主性を育む教育の重要性を強調するが、実際は個性や自主性を抑制している可能性があると言える。

5-2 改善策

本研究の結果と考察を踏まえ、以下の提案をするに至った。

現在、日本で行われている教育制度の改革は、他国からの影響を強く受けている。近年においては、一貫教育をはじめ、フィンランド教育を取り入れる傾向にある。しかし、両国の文化の違い、国民性の違い、教育制度の違いを考えると、日本の教育現場にフィンランド教育を取り入れることには慎重になるべきではないだろうか。日本で教育制度の改革を行うのであれば、日本人に適合した、日本独自の教育制度を取り入れる必要があると考えられる。日本における教育改革は、日本人の特性を理解した上でその制度を立案し、導入する必要がある。これにより効率的に文部科学省が目指す教育の姿を実現できる。またこれらの改革は教育現場との連携を考慮しながら進める必要がある。

以上が、本研究から導いた改善策である。

5-3 これからの課題

本研究は教育制度のみに視点を置いて自己主張性について分析したが、横断研究による発達の視点からの先行研究では、自己主張は3歳から4歳後半にかけて急速に伸びるとされている(柏木, 1988)。しかし、本研究の分析では発達の要因については十分に考慮されていない。柏木(1988)によると、幼児教育が自己主張性に大きく関与していると考えられることもできる。今後、自己主張性に関する検証において教育的視点と発達の視点の両側面から行う必要がある。また、本研究は一部国際的な比較を含んでいるものの、日本の教育制度を見ると、他国の成功例を取り入れたものが多く存在しているため、国際比較においてもこの点を十分に検討する必要がある。さらに、本研究では自己主張性の強さに起因する諸問題(例えば精神疾患、社会適応力等)については十分に検討されていない。今後はこれらの点を考慮し、自己主張性の問

題を総合的に検証する必要がある。

第6章 文献

・文部科学省 (2013) 「第2期教育振興基本計画(本文)」

http://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/detail/1336379.htm(閲覧日:2017年1月31日)

・内閣府 (2013) 「平成25年度我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」

http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/thinking/h25/pdf_index.html(閲覧日:2017年1月31日)

・久保島 昌一 (2013) 「調査結果にみる高校教育の現状と課題—学校現場の視点から解説②」

埼玉県立不動岡高等学校教頭

http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/shidou_kihon5/kou_hon/pdf/data_03.pdf

・柏木恵子 (1988) 「幼児期における『自己』の発達」. 東京大学出版会.

・財団法人一ツ橋文芸教育振興協会 (2010) 「高校生を取り巻く状況について」 財団法人日本青少年研究所

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siryo/_icsFiles/afieldfile/2012/08/21/1324726_03_1.pdf

・伊藤正哉・小玉正博 (2005) 「自分らしくある感覚(本来感)と自尊感情がwell-beingに及ぼす影響の検討」

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110001889165>

・原田知佳・吉澤寛之・吉田俊和 (2008) 「社会的自己制御(Social Self-Regulation)尺度の作成—妥当性の検討および行動抑制/行動接近システム・実行注意制御との関連—」

<http://doi.org/10.2132/personality.17.82>

・首藤敏充 (1995) 「幼児の向社会的行動と自己主張—自己抑制」 筑波大学発達臨床心理学研究

・外山美樹 (2016) 「子ども用楽観・悲観性尺度の作成および信頼性・妥当性の検討 教育心理学研究」

<http://doi.org/10.5926/jjep.64.317>

・古市裕一 (1995) 「児童用主張性検査の開発」

http://doi.org/10.11383/kokoronokenkou1986.10.2_69

・川崎友嗣 (2008) 「第2章キャリア教育の効果と意義に関する研究—中学校における効果測定の試み—」

www.chat.kansai-u.ac.jp/publications/tr/v7_2.pdf

・桜井茂男 (2000) 「ローゼンバーグ自尊感情尺度日本語版の検討」

www.sed.tohoku.ac.jp/library/nerpo/contents/58-2/58-2-15.pdf

・高坂康雅 (2008) 「自己の重要領域からみた青年期における劣等感の発達的变化」

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110006824996>

・原田知佳・坂井誠 (2006) 「中学生における自己抑制機能とストレス反応との関連」

[http://repository.aichi-](http://repository.aichi-edu.ac.jp/dspace/bitstream/10424/339/1/KJ00004438343.pdf)

[edu.ac.jp/dspace/bitstream/10424/339/1/KJ00004438343.pdf](http://repository.aichi-edu.ac.jp/dspace/bitstream/10424/339/1/KJ00004438343.pdf)

・ベネッセ教育総合研究所 (2005) 「1号：教育の未来にとって真の課題とは何か」

[http://berd.benesse.jp/berd/center/open/berd/backnumber/2005_01/](http://berd.benesse.jp/berd/center/open/berd/backnumber/2005_01/fea_fujita_08.html)

[fea_fujita_08.html](http://berd.benesse.jp/berd/center/open/berd/backnumber/2005_01/fea_fujita_08.html) (閲覧日:2017年1月31日)

・中澤篤史 (2015) 「運動部活動は日本独特の文化である——諸外国との比較から」

<http://synodos.jp/education/12417/2> (閲覧日:2017年1月31日)

・和田秀樹 (2001) 『「自分がない症候群」の恐怖』 PHP 研究所

・大内晶子・長尾仁美・櫻井茂男 (2008) 「幼児の自己制御機能尺度の検討：社会的スキル・問題行動との関係を中心に」

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110006950915>

・佐藤淑子 (2001) 「日本の子どもと自尊心—自己主張をどう育むか」 中央公論新社

・久米功一・花岡智恵・水谷徳子・大竹文雄・奥山尚子 (2014) 「パーソナリティ特性の形成要因—家庭・学校・職場の経験から」

<http://doi.org/10.11167/jbef.7.50>

付録

相関マトリックス																																															
	自己抑制	自己抑制	自己主張	自己主張	自己主張	協調性	協調性	教育	教育	教育	協調性	実観主義	実観主義	自己主張	自己主張	権威者依存	権威者依存	教育	教育	権威者依存	生きも力	自己主張	生きも力	教育	教育	教育	自尊感情	自尊感情	自己主張	自己主張	教育	教育	実感等	自己主張	自己主張	実感等	教育	教育	権威者主	自己主張	自己主張	権威者主	教育	教育	教育		
自己抑制	1.000	0.109	-0.159	0.144	-0.115	0.021	-0.127	0.094	0.093	0.041	0.152	-0.345	-0.313	-0.339	-0.200	0.003	0.156	-0.165	-0.023	0.006	-0.409	-0.202	-0.327	-0.099	0.104	0.057	-0.188	-0.028	-0.046	-0.167	-0.068	0.227	-0.089	-0.251	-0.031	-0.235	-0.129	0.040	-0.318	0.044	-0.157	-0.106	0.197	-0.005	-0.078	0.028	
自己抑制		1.000	-0.210	-0.080	-0.210	-0.113	-0.086	-0.034	-0.148	0.152	0.047	0.129	-0.174	-0.339	-0.292	-0.058	0.052	-0.430	-0.372	0.023	-0.135	0.062	-0.153	-0.375	0.060	0.205	-0.082	-0.187	-0.084	0.035	-0.271	-0.091	-0.006	-0.313	0.099	-0.060	-0.153	0.094	-0.252	0.173	-0.077	0.120	0.404	0.102	0.082	0.019	
自己主張			1.000	0.320	0.486	-0.218	0.186	-0.317	-0.225	-0.147	-0.041	0.132	0.252	0.300	0.542	0.339	-0.105	-0.049	-0.003	0.028	0.169	0.090	0.136	0.154	-0.445	-0.377	0.091	0.223	0.427	-0.137	0.019	-0.217	0.177	0.543	-0.178	0.387	-0.046	0.088	-0.020	0.163	0.147	0.207	-0.021	0.104	-0.100	0.055	
自己主張				1.000	0.298	-0.145	0.039	-0.079	0.085	-0.035	0.106	0.281	0.213	0.146	0.177	0.208	-0.138	0.032	0.205	-0.150	0.205	-0.064	0.228	0.148	-0.206	-0.090	-0.046	0.312	0.327	0.007	0.089	0.031	0.109	0.068	-0.039	0.007	-0.034	0.114	0.018	0.045	-0.018	0.171	0.103	0.147	0.028	0.099	
自己主張					1.000	0.083	0.200	-0.228	-0.149	-0.269	0.051	0.171	0.076	0.304	0.448	0.286	0.007	0.095	0.027	0.054	0.159	0.092	0.165	0.069	-0.237	-0.432	0.094	0.178	0.481	-0.109	-0.192	-0.086	0.156	0.340	-0.001	0.284	-0.117	0.123	-0.040	0.232	0.216	-0.053	0.059	0.056	-0.036	0.093	
協調性						1.000	0.037	0.136	0.196	-0.139	0.048	-0.255	-0.032	0.142	-0.098	-0.117	0.112	0.184	-0.104	0.099	-0.134	0.167	-0.015	0.069	0.165	-0.010	-0.056	-0.036	-0.109	-0.109	-0.015	0.136	0.110	0.036	-0.069	0.100	0.091	0.079	0.056	0.063	0.073	-0.398	-0.110	-0.022	0.034	0.236	
協調性							1.000	-0.113	0.060	-0.223	0.207	0.185	0.107	0.198	0.261	-0.099	0.233	0.196	-0.013	0.291	0.128	-0.013	0.129	0.308	-0.186	-0.262	0.028	0.097	0.055	-0.019	-0.041	0.100	0.201	0.119	-0.164	0.060	0.098	-0.087	0.073	-0.026	0.092	-0.079	-0.006	0.359	-0.031	0.061	
教育								1.000	0.409	0.380	-0.213	-0.235	-0.261	-0.191	-0.509	-0.042	-0.025	0.062	-0.033	-0.113	-0.212	-0.266	-0.275	-0.029	0.643	0.390	0.008	-0.228	-0.188	0.019	0.126	0.381	-0.132	-0.269	-0.091	-0.286	-0.014	-0.048	-0.133	-0.079	-0.018	-0.097	-0.175	-0.174	-0.203	-0.091	
教育									1.000	0.105	0.000	0.001	-0.037	0.017	-0.307	-0.102	0.146	0.366	0.110	0.092	-0.159	-0.156	-0.200	0.121	0.488	0.150	-0.050	0.051	-0.050	-0.029	0.156	0.055	0.051	-0.265	-0.049	-0.122	0.101	0.033	0.089	-0.240	-0.020	-0.311	-0.396	-0.171	-0.112	-0.167	
教育										1.000	-0.296	-0.025	-0.154	-0.219	-0.259	0.019	0.039	-0.206	0.054	-0.094	-0.061	-0.029	-0.112	-0.144	0.304	0.372	-0.145	-0.264	-0.278	0.068	0.097	0.181	-0.184	-0.274	0.128	-0.137	-0.058	0.106	-0.325	-0.072	-0.291	-0.038	0.136	-0.043	-0.031	-0.046	
協調性											1.000	0.017	0.103	0.207	0.126	0.078	0.047	-0.133	-0.131	0.190	0.166	-0.092	0.152	-0.050	-0.121	-0.216	0.066	0.123	0.132	-0.247	-0.137	-0.106	0.161	0.037	-0.072	0.116	-0.067	-0.034	-0.146	0.250	0.145	0.011	0.204	0.070	0.152	0.136	
実観主義												1.000	0.433	0.224	0.189	0.031	-0.055	0.029	0.099	-0.017	0.401	0.139	0.385	0.016	-0.299	-0.189	0.155	0.208	0.105	0.162	0.102	-0.239	0.123	-0.049	0.201	-0.033	0.167	0.104	0.111	-0.084	-0.013	0.115	0.003	0.246	0.126	-0.027	
実観主義													1.000	0.306	0.156	0.193	-0.197	0.063	0.045	0.102	0.628	0.046	0.680	0.117	-0.389	-0.321	0.206	0.307	0.080	0.078	0.151	-0.170	0.250	0.170	-0.007	0.186	0.013	-0.027	0.161	0.022	0.050	0.088	0.002	0.094	-0.006	-0.042	
自己主張														1.000	0.378	0.216	-0.013	0.203	0.120	0.111	0.388	0.105	0.399	0.207	-0.200	-0.311	0.232	0.379	0.167	-0.027	-0.001	-0.159	0.185	0.513	-0.046	0.298	-0.051	0.033	0.076	-0.034	0.302	-0.069	-0.098	0.038	-0.009	0.089	
自己主張															1.000	0.202	0.032	0.031	0.105	0.118	0.233	0.176	0.168	0.188	-0.615	-0.467	0.220	0.352	0.396	-0.143	-0.032	-0.005	0.216	0.632	-0.155	0.397	-0.172	-0.014	0.019	0.055	0.146	0.107	-0.029	0.194	0.184	0.014	0.041
権威者依存																1.000	-0.082	-0.174	-0.142	-0.066	0.171	-0.385	0.395	0.050	-0.053	-0.204	0.266	0.228	0.264	-0.121	-0.208	-0.084	0.141	0.261	-0.378	0.412	-0.402	-0.114	-0.185	0.214	0.163	0.103	0.085	0.030	0.071	0.022	
権威者依存																	1.000	0.089	-0.121	0.385	-0.173	-0.069	-0.121	-0.020	0.122	-0.176	-0.069	0.082	-0.033	0.032	-0.069	0.010	0.013	-0.054	0.059	0.083	0.035	-0.059	-0.069	-0.272	0.035	-0.371	-0.074	0.079	0.121	-0.003	
教育																		1.000	0.343	0.019	0.007	0.040	0.058	0.462	0.165	0.001	0.059	0.126	0.092	0.018	0.238	0.201	-0.085	-0.053	0.153	-0.169	0.122	0.051	0.331	-0.358	-0.038	-0.207	0.664	-0.003	-0.203	-0.147	
教育																			1.000	-0.199	0.126	0.076	0.061	0.223	-0.071	0.122	-0.061	-0.116	0.052	-0.020	0.443	0.200	-0.258	-0.019	0.095	-0.135	0.180	0.138	0.179	-0.312	-0.164	-0.055	-0.231	0.022	-0.185	0.089	
権威者依存																				1.000	0.009	-0.096	0.075	-0.052	-0.179	-0.339	0.030	0.082	0.152	-0.082	-0.065	-0.086	0.134	-0.021	-0.193	0.208	-0.091	-0.250	-0.247	0.005	0.054	-0.202	-0.003	0.235	0.043	0.015	
生きも力																					1.000	-0.001	0.650	0.076	-0.233	-0.201	0.332	0.225	0.197	0.152	0.099	-0.241	0.158	0.183	0.043	0.092	0.087	-0.050	0.076	0.068	0.088	0.189	0.020	-0.015	0.008	-0.057	
自己主張																						1.000	-0.106	-0.071	-0.202	0.025	-0.206	-0.048	-0.012	0.147	0.219	-0.234	-0.163	0.064	0.205	0.028	0.332	0.121	0.085	-0.074	-0.134	-0.080	-0.034	-0.124	0.010	0.052	
生きも力																							1.000	0.176	-0.319	-0.307	0.269	0.315	0.102	0.061	0.050	-0.099	0.145	0.276	-0.079	0.172	-0.161	-0.080	0.147	0.051	0.104	0.135	0.070	0.151	0.091	-0.031	0.061
教育																								1.000	-0.131	-0.081	0.128	0.237	0.097	0.086	0.082	0.238	0.005	0.260	0.063	-0.020	0.005	0.102	0.363	-0.233	0.098	-0.076	-0.327	0.149	-0.093	0.050	
教育																									1.000	0.518	-0.089	-0.314	-0.241	-0.016	0.066	0.202	-0.218	-0.405	0.124	-0.363	0.041	0.045	-0.059	-0.087	-0.118	-0.300	-0.293	-0.343	-0.055	-0.187	
教育																										1.000	-0.044	-0.379	-0.279	-0.024	0.073	0.204	-0.189	-0.337	0.271	-0.337	0.182	-0.081	0.055	-0.061	-0.221	0.023	-0.115	-0.216	-0.180	-0.105	
自尊感情																											1.000	0.221	0.232	-0.066	-0.036	-0.093	0.393	0.247	-0.070	0.269	-0.137	-0.153	0.071	0.207	0.362	0.168	0.052	0.058	-0.015	-0.134	
自尊感情																												1.000	0.446	0.056	0.005	-0.235															